

## 茶館

——中国の風土と世界像——

竹内 実著

大修館書房 B 6 版 210頁

1,100円

「茶館〈チャアグワン〉」とは、中国のいままでい  
う喫茶店で、人々の語らいの場である。著者は、  
この茶館を舞台に、そこで気楽にかわされる対話  
の形式を使うことによって、中国の風土と人々の  
世界像を語ろうとしている。明治以降、多くの日  
本人は、中国に対して、日本と「同文同種」の言葉  
という気安さ、あるいは欧米先進国に目を奪われ  
過ぎたことによる軽視など、中国の全体像をあい  
まいに、そして都合よくしか理解してこなかった。  
小さいまとまりのある島国に住む日本人には、中  
国の古い歴史と文化はもちろん、アメリカ、ヨー  
ロッパがすっぽり入る広大な国土、約8億ともい  
う人口、複雑な方言などによっても、中国像を観  
念的にとらえがちであったことは事実であろう。  
著者は、新中国の姿の紹介についてよりも、日本  
人にとって「中国について、自明とされているこ  
と、自明とされているものの意味」について明確  
にしようとしている。例えば広さについて、こん  
なふうにある。

B ヨーロッパの地図を重ねて見るとおもしろい。ヨー  
ロッパは中国より狭い。そこにあれだけの国家が分立し  
ているのに、似たような面積の中国では、国家はひとつ  
成立しているだけだ。逆にいうと中国の歴史は、ある意  
味で世界史なんだ。

A <広い>ということが民族や国家と結びつくと、い  
ろいろな<意味>をおびてくるということだね。

また、人民公社と「郷〈シェン〉」との関係を、  
新中国成立前の共同体までさかのぼって対話を進

めている。

A 話をもとにもどして、<人間にとって、世界はどれ  
くらいの広がりをもつか>を問題にしたとき、<旧中国  
では>「郷」がひとつの単位になるといったとおもう。  
これが人民公社にも生きているんだ。①人民公社は  
<郷>を範囲としていること。②1郷1社であること。  
③人民公社は従来の郷政府の行政事務をおこなうこと  
<これを「政社合一」という>。

A つまり、この3つの枠組からいえば、人民公社の下  
部は民衆だね。

B 実際には<人民公社—生産大隊—生産隊>という組  
織だがね。……

わかりやすい対話と豊富な図表を使いながら、中  
国の面積、人口、社会制度など基礎知識のみなら  
ず、その周辺への配慮は親切である。

横浜市は、49年11月で上海市と友好都市提携2周  
年目をむかえた。一方、日中間は、航空協定・海  
運協定が結ばれ、今後ますます相互交流が多くな  
るだろう。そういった意味で、私たちが中国の風  
土と人々に関して、自明とされていることの中  
にかくされている実体を改めて問いなおすというこ  
とは、観念的な友好関係でない、真の友好の手が  
かりになるはずである。

<企画調整局都市科学研究室 仲田五郎>

### あとがき

昭和49年10月の横浜市の主婦1,300名を対象とし  
た「物価意識調査」<「市長と市民の会」実施>  
によると、1カ月の家計の収支状況は、「赤字」  
が50%、「収支トントン」が41%であった。

つまり、9割の家庭は家計に余裕がなくなっ  
てきており、インフレの進行がひとしおきびしさを増  
してきているとみることができるだろう。

このような生活に対する実感と肉声とをベースに  
し、なすべき手だては何かを各方面の方に執筆を  
お願いした。<中川>

# 調査季報

# 44

1974年12月25日

編集・発行——横浜市企画調整局都市科学研究室

横浜市中区港町1-1

印刷——西岡印刷株式会社

横浜市南区吉野町5-22